

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890101235
法人名	特定非営利活動法人Link愛媛
事業所名	グループホームごごしま
所在地	愛媛県松山市泊町266番地
自己評価作成日	平成28年4月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年4月28日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「安心・安全をいつまでも、自分らしく生きて行く。」を法人の基本理念とし、介護が必要になっても、今までの趣味や役割を継続しながら、住み慣れた興居島で自分らしく生活できるよう支援していきます。また、島民やホーム利用者と共に「たくさんの感動」「住みやすい地域への協働」「1人ひとりが主役であり創造人」を掲げて活動していこうと考えています。このグループホーム事業は始まりであり、島での活動を通して、たくさんの島民や利用者とその家族の方々と一緒に活動し、新しいものを創造でき、感動できる社会をめざしていきます。そして、島の認知症ケアの支援にも寄与していきたいと考えております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域の方達からの「島に入居できる介護サービスを」という声から開設に至った事業所で、地域の協力を得て、つながりを大切にしながら運営を行っている。  
 人と人のつながりが深い地域でもあり、散歩中に声をかけてくれたり、野菜や果物を持って来てくれる等して事業所に関心を持ってくれる方が多いようだ。この一年間では、小・中学校と地域住民合同の運動会や島四国八十八ヶ所、祭り等、島内行事に利用者に参加しながら地域との関係作りに取り組んだ。今年4月には、島四国のお接待を玄関先で行い、利用者も訪れる人ようかんやお茶を振る舞った。  
 職員は、ゆっくり利用者とお話する時間をもち、利用者からの希望や要望があれば申し送りノートに記入して職員で共有し、支援につなげている。  
 ユニット間にあるテラスから直接畑に行けたり、玄関先には高さに配慮した花壇が作られており、戸外で楽しみながら活動できるような環境が整備されている。又、車いすを使用する方でも、ちょっと外で過ごすことができる。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームごごしま

(ユニット名) みさき・なぎさ

記入者(管理者)

氏名 村上 誠

評価完了日 28 年 4 月 22 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 1年目の施設のため、職員の増員等も多いので認知症介護の理念を構築し、職員1人ひとりが理解でき共有できるように徹底します。玄関ホールには理念を掲示している。</p> <p>(外部評価) 地域の方達からの「島に入居できる介護サービス」という声から開設に至った事業所で、地域の協力を得て、つながりを大切にしたい運営を行っている。理念は「安心・安全をいつまでも、自分らしく生きていく」と掲げ、管理者は「自慢できるような事業所を作っていこう」と職員と話している。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 毎日、地域の方の訪問や家族が来てくれています。地域行事にも積極的に参加を行っています。今後も、利用者に対しての社会参加の機会を提供していきます。</p> <p>(外部評価) 人と人のつながりが深い地域でもあり、散歩中に声をかけてくれたり、野菜や果物を持って来てくれる等して事業所に関心を持ってくれる方が多いようだ。この一年間では、小・中学校と地域住民合同の運動会や島四国八十八ヶ所、祭り等、島内行事に利用者と参加しながら地域との関係作りに取り組んだ。今年4月には、島四国のお接待を玄関先で行い、利用者も訪れる人によかんやお茶を振る舞った。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議を活用して認知症の勉強会や、最新の情報の発信に努めています。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回、会議を行い、当施設の近況報告を行い、会議の場で出た意見や要望は出来るかぎり、施設の運営に組み入れるようにしています。地域の方との意見交換が行える時間を多く作るようにしています。</p> <p>(外部評価) 会議は、事業所の居間で行っていたが、利用者の増加に伴い、2月から公民館で行っている。会議には町内会長や民生委員の参加があり、主に地域との情報交換や勉強会の機会としている。利用者やご家族は順番に参加できるよう声かけをしている。今後は、島内のデイサービスや学校関係者にも参加してもらえよう案内して、ネットワークを拡げたいと話していた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 1年目の施設にて、市の担当者には事業運営のために必要な相談を行いました。また、利用者・家族を含めた相談ケースもあり、協力を頂いています。</p> <p>(外部評価) 三津地区の地域包括支援センターが主催する事業所連絡会に参加して、他事業所との意見交換や交流を行っている。島内の小・中学校には、利用者との交流を働きかけ、職場体験や敬老会を通じた交流を今年度の年間行事に採り入れてもらった。又、管理者は、町内会長連絡会に出席して地域行事の運営等についても話し合っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 施設内勉強会の最初の課題に身体拘束について職員に学んでもらいました。身体拘束をおこなわないケアに取り組んでいます。現在、玄関の施錠はせず、見守り支援を実施しています。</p> <p>(外部評価) 「帰りたい」気持ち強い利用者が行方不明になった際には、島内放送を行ってもらい、捜索には地域の方も協力してくださった。その後は、24時間生活変化シートを利用してご本人の生活傾向を探り、思い等も踏まえた支援策を話し合った。又、運営推進会議時には、経緯や支援策を報告した。居室の半間の窓は、ロックを掛けて全開できないようにしている。管理者やケアマネジャーは、ミーティングや日々のケアの中で身体拘束や虐待についての知識や弊害を職員に話している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			外部で行っている研修への参加を職員に勧めたり、掲示している。研修参加への費用も会社からの支援も実施。また、事業所内勉強会も行って虐待の防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			職員には、外部研修への参加を勧めている。現在、制度を活用している利用者はいないが、いつでも対応できる様に知識の向上に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			契約書・重要事項説明書の説明を口頭で行い、重要な点については、わかりやすい説明を行う様に配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			利用者・家族・地域の方からの要望には、早期に対応できるように心がけている。	
			(外部評価)	
			管理者やケアマネジャーがご家族の事情等に合わせて、電話したり、ご自宅まで出向く等して相談に乗っている。地域行事に参加する際には、ご家族も一緒に楽しめるように誘っている。2ヶ月に1回事業所便り「きずなだより」を発行し、活動の様子を報告しており、送付時には個別写真を同封している。	ご家族は利用者の暮らしをともに支えるケアパートナーでもあり、一緒に認知症やケアについて学ぶような機会を作ってはどうか。事業所便りを工夫したり、運営推進会議録等も活かして取り組みをすすめてはどうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回、職員会議を設け理事も必ず参加している。職員会議の他に、月2回の会議を実施。また、朝にしっかり時間を設け話し合いを行っている。	今後は、職員が外部研修も受講できるような機会を増やして、個々のレベルアップに取り組み、事業所のサービスの質向上につなげてほしい。
			(外部評価) 島外から通勤する職員もあり、事業所では、港に自転車や駐車場を用意したり、勤務時間についても船の時刻表と調整配慮している。今年は、人事考課の取り組みとして、職員それぞれが自分自身のケア等をチェックし、その後に管理者と面談を行い、個別にサポートしていく仕組みが始まる予定になっている。今回の自己評価は、管理者が作成し、その後職員が内容を確認する形で取り組んだ。利用者個々の水分摂取量の把握のために、利用者の湯呑みには内容量を示したシールを貼っていた。又、トイレや浴室には利用者の使用時間がわかるように時計を設置していた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、事業所への訪問を行い、職員と話し合う機会を作っている。職員の人事考課は管理者が行い、本人評価も行う様に取り組みを始めている。	
			(外部評価) 内部研修はシフトの調整を行い、全員参加できるように配慮している。外部研修は掲示や声掛けを行い、費用の負担も支援している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 内部研修はシフトの調整を行い、全員参加できるように配慮している。外部研修は掲示や声掛けを行い、費用の負担も支援している。	
			(外部評価) 地域包括支援センターの主催する連絡会等に参加している。島内の他事業所へは利用者の訪問をさせてもらうなど、交流を図っている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前訪問が行える時には、ゆっくり対話を行い安心感を持ってもらえるように配慮している。利用者の訴えに気づけるように職員間の情報共有もこまめに行っている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)  これまでの生活歴や、当施設でどのように過ごすことを望んでいるのかなどの聞き取りを行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)  相談があった場合には、本人・家族の思いの聞き取りを行い、当施設の利用が最善なのか、すぐに必要なのかを考え相談を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)  地域での風習やまわりとの関わりなど、教わることも多い。また、先人の知恵を生活の場で活かし出来ることには多く取り組んでもらうことで良い関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)  本人のケアに関することや状態の報告・連絡を行い、必要な協力は頂いている。また、地域行事やホームの活動も連絡により参加して頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)  日々の外出時などに自宅周辺へ立ち寄る様にしている。地域の行事への参加も行っている。今後は、ホームの活動として、それぞれの地域へ出向いていき交流を図る場を作ること検討している。	
			(外部評価)  利用者からの希望で、島内にある墓参りを支援したり、高齢のご家族に代わって、役所に申請に行ったりして利用者、ご家族の暮らしを支えている。耳が遠い利用者をご家族に電話する際には、職員が仲介している。今後は、利用者のご自宅がある地区の公民館等を使用してお茶会を催し、利用者に馴染みのある場に馴染みの人が集まって、楽しく過ごせるような機会を作りたいと考えていた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者間で交流が多く図れるようにユニット単位ではなく、ホーム単位で交流の場を提供している。利用者間の相性や意向も踏まえて席の配置を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 在宅復帰された後にも、地域で出会う機会もあり、話はよくしている。再入所されることもあり、家族・担当ケアマネジャーと連絡は行う様になっている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の会話の中で聞き出すように対話を行っている。また、家族からも聞き取りを行い対応している。 (外部評価) 職員は、ゆっくり利用者とは過ごす時間を持ち、利用者からの希望や要望があれば申し送りノートに記入して職員で共有し、支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族へ生活歴の聞き取りを行ったり、必要であれば、担当のケアマネジャーや医療機関から情報を得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活リズムの把握や体調の移り変わり方などを全ての職員が把握できるように努め対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			(外部評価)	
			介護計画は1年ごとに作成しており、3ヶ月毎に担当職員2名で日常生活動作の項目に沿って、向上・維持・低下を記号でモニタリングする仕組みになっている。計画書は、24時間時系列で、「排泄介助」等、職員が支援する内容が記入されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			(自己評価)	
		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	離島の施設のため、利用者・家族の要望を柔軟に対応している。また、地域と共に島での暮らしを考えている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 要望や必要があれば専門医師の診察を行っている。日常の診察は協力医療機関への診察を行っている。</p> <p>(外部評価) 往診や受診時には、日常生活の様子等を伝えて、便秘や不眠の軽減に向けて薬の調整等も行っている。医師からは「散歩に出たらいいね」等のアドバイスもある。協力医療機関から看護師の訪問があり、利用者の健康管理をしてもらっている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 協力医療機関より、月1回の往診と週1回の看護師による健康管理を行っている。当施設にも看護職員を2名配置しており、医療機関との連携も随時行っている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時は日常の留意点を伝達。協力医療機関を通じての入院が多いため、日々、心身の変化がある場合には相談や報告を行っている。また、可能な限り面会にも行くことで、認知症の緩和にも努めている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 現在、終末期を迎えた事例はないが、入居時、必要時に重度化、見取りに対する指針を説明し、同意書を交わしている。家族や協力医療機関との連絡を取り合い、援助を行っている。</p> <p>(外部評価) 開設から1年間は、緊急時の対応について勉強した。入居時に、終末期の過ごし方についてご家族に希望を聞いており、「治療でよくなるようであれば病院に」「老衰ならここで」という意向が多いようだ。利用者の中には「病院には行きたくないわ」「ここで最期まで」と希望を言う方もある。終末期支援については、地域の体制上のことも踏まえて、職員やご家族とどのようなことができるか、具体的に勉強する機会を作ってはどうか。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  急変時の手順や対応方法は会議の時間を設けて、全職員に周知徹底を図っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  防災訓練を行い、消防の協力の下避難訓練等を実施しました。全職員が消防の立会いでの訓練が受けれるようにシフト調整を行い、数回に分けて実施していく予定。  (外部評価)  消防署の協力を得て、職員と利用者で日中の火災を想定した避難訓練を行った。	今後は、運営推進会議の機会等を捉えて、備蓄や協力体制づくりについて話し合いを重ねてほしい。さらなる安全安心に向けて、夜間帯を想定した訓練や地震、津波等を想定した訓練等を地域の方達と一緒に行ってほしい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  個人の尊厳やプライバシーが守られるような環境作りと、人材育成を行ってる。  (外部評価)  この一年間は、「職員の基本的なケアの徹底」に取り組むことを目標に挙げて、毎月の職員会議時に勉強会を行ったり、午後の1時間程度ケアマネジャーが職員に認知症ケアや言葉かけ、対応等についてレクチャーする取り組みを行った。歌謡曲の番組を見ながら晩酌することが楽しみな方には、職員が用意等を手伝っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  職員が利用者に関わりを多くもつことで、やりたいことの聞き取りや思いをくみ取り、実現できるように支援している。また、本人の出来ることは可能な限りしてもらおう体制作りを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のやりたいことの聞き取りを行い、日々支援にあたっている。また、集団生活の中でも、個々の楽しみに配慮し生活が送れるように支援に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族支援以外では、2カ月に一回は外部の利美容の支援を受け、本人では行く事のできない方のカットを行っています。身だしなみは毎朝の洗顔時や入浴時・更衣の際に支援をしています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備・片付け等は出来る範囲で一緒に取り組んでいます。また、食べる環境やエプロンの工夫など、改善を日々行ってる。	さらに、利用者主体の食事支援の実践に向けて、食事を楽しむという観点から、個々が食事一連の流れの中でかかわるような場面を増やしてほしい。又、職員のかかわり等についても、工夫できる点はないか話し合ってみてほしい。
			(外部評価) 利用者に「好きなものは何？」等と聞きながら、栄養士資格を有する職員が中心となって献立を作り、食材を業者に注文して事業所で食事を作っている。近所の方が野菜や果物を持って来てくれたり、事業所の菜園でできた野菜等も使用している。利用者には、もやしの根取りや食器洗い、お盆拭き等を行えるような場面を作っている。職員は、利用者と一緒に同じテーブルで食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の量・形状は個々に合わせ提供しています。水分量も毎日計量し、職員全員で把握できるようにしています。メニューは担当者2名が見直しを行い、栄養バランス等の改善にも努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアの支援・声かけを行い、毎回実施。チェック表への記入も行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>全ての利用者がトイレで排泄を行えるように、誘導、支援を徹底して行っている。毎日の申し送りでも、一人ひとりの排便日を確認している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者個々の便秘予防やおむつの必要性について話し合い、申し送りノート等を使用して職員間で共有し、支援を行っている。可動式のテーブルを設置しており、前傾姿勢保持や立ち上がり時に使用している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>排便がスムーズに出来るように、個々に合わせた飲み物の提供と服薬調整も行っている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入浴日は設定しているが、必要や希望があれば入浴を行っている。入浴時間や回数は個々に合わせて支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入浴の曜日を決めて、利用者個々に週2回程度入浴できるように支援を行っている。事業所では、午前中は活動して、午後からじよじよに落ち着いて過ごし、自然な就寝につながるよう、生活のリズムを作りたいと考えている。又、職員数のこともあり、午前中が入浴時間となっている。入浴日の利用者に声をかけて、ひとりの職員が一連にかかわり、ゆっくり入浴できるよう支援している。浴槽をまたぐことが困難な利用者はリフトを使っている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日中の活動時間を設け、夕方はゆっくり過ごす様に勤めている。利用者の体調に合わせて静養なども促している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 心身の状態改善のために、服薬に関しては医療機関・薬局と情報交換を密に行っている。目的や副作用についても職員間で情報共有ができるように常に会議で話し合いを行い、伝達している。週に1回、病院の看護師が健康管理を実施。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の楽しみを可能な限り形にできるように、家族と職員が協力して日常生活をサポートしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域への散歩等は、ほぼ毎日行っています。希望にそって、ドライブや地域行事への参加も積極的に参加しています。家族との外出や外泊の支援も行っている。 (外部評価) 雨天の日以外は散歩に出かけている。ユニット間にあるテラスから直接畑に行けたり、玄関先には高さに配慮した花壇が作られており、戸外で楽しみながら活動できるような環境が整備されている。又、車いすを使用する方でも、ちょっと外で過ごすことができる。毎週金曜日には玄関先に移動パン屋が来ており、利用者は外に出てパンを選んでいる。又、島内のドライブやスーパーに出かける機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の能力によって管理方法を判断して施設管理と個人管理を分けている。個人管理の方は、あまり多く持たない様に家族の支援・理解を得ている。買い物を楽しみにされる方も多く、週に1回以上は買い物に参加できる環境を作っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を持たれている方もいらっしゃいます。手紙や郵送物はその都度、施設負担で送っています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 季節によって壁の掲示物を作成。共用部分の掃除もこまめに行い、清潔感を保っている。施設内の設備は最新の物を設置しており、職員も環境の変化に気づきやすい様にチェックできるものを共用部分にも置いて対応している。</p> <p>(外部評価) 建物内は壁紙や床等、白系色を多く採り入れている。両ユニットの居間からは中庭のテラスに段差なく出られる造りで、両ユニットでお茶を楽しむ等して交流している。居間の食卓テーブルでは、ご自分の席で、ご自分用のプレイヤーを使用して歌謡曲を聞いたり、塗り絵をして過ごす方がいた。壁には大型のテレビが設置されており、テレビの正面の座席もある。壁には、こいのぼりの作品を飾っていたり、手作りカレンダーには六曜を記入してあった。</p>	<p>放尿があったり植物に過剰に水やりする方等があり、共用空間の環境づくりには制限もあるようだが、季節感や利用者の活動意欲を触発するようなものの配置にも、工夫してほしい。利用者の中には「何かやることはないか」と考えている方も見受けられた。個々のこれまでの暮らし方等を踏まえた支援を工夫してほしい。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 交流がしやすいように、リビングに畳の部屋を用意している。また、ウッドデッキや玄関にも椅子をたくさん設置している。</p>	<p></p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 部屋の扉はわかりやすい様に部屋ごとに色を替えている。室内はシンプルな作りとなっており、使い慣れた家具等を持ち込んで配置を行っている。部屋の空間作りも職員が支援している。</p> <p>(外部評価) 「自分のことは自分で」という方は、起床後にはベッドの布団や寝巻きをたたんでいた。居室の中には畳の間の部屋もあり、ご家族来訪時には座って過ごされる。</p>	<p></p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 交流や自立を促進でき本人の力が発揮できやすいように建物内部の工夫を多く取り入れている。また、重度化しても生活を継続できるように浴室にはリフト。トイレにはファンレストテーブルも備え付けている。</p>	<p></p>